

辻井達一博士メモリアル2

ほろむい七草フォーラム



カナダの例を元に産業化への道を解説する星教授

第一部は、札幌市立大学の矢部和夫教授と東海大学の星良和教授から実践的な提言、ふらっと南幌の小原大知さんから報告。二部では会場を巻き込み、来年度の「産業化」に向けた「ほろむい七草復元再生・活用とミズゴケ大規模栽培」の可能性を議論した。矢部教授は「ボック創出には水位の安定が不可欠。夕張川河川敷での湿原復元再生に役立つ」と意欲を示した。

星教授は「カナダでは産官学協働でミズゴケ栽培、四十億円を投資して最新方式で（二頁へ）」



当別高校生や北海道科学大学からの飛び入りもあり、議論は多岐に！
「ほろむい七草の会」発足の検討へ

北海道の原風景（湿原）の植生復元再生を实践しようとして、十二月六日、北海道開発局をはじめ関係者約五十名が参加し、辻井達一博士を偲ぶ二回目のフォーラムを開催。「ミズゴケとほろむい七草の産業化」の道を三氏の提言と会場との意見交換で探った。

ふらっと南幌会報

発行元

NPO
ふらっと南幌

南幌町栄町
4丁目4番19号
378-2203

田園に喉歌とケーナの調べ



喉歌、馬頭琴の嵯峨治彦さん ケーナ奏者の岡田浩安さん



無農薬無肥料栽培水田「エコ田んぼ」で十月五日、同水田の所有者である佐藤農場の納屋で喉歌とケーナの演奏による収穫祭を開いた。喉歌、馬頭琴奏者の嵯峨治彦さんとサンポーニヤ、ケーナ奏者の岡田浩安さんが出演。モンゴルと南米の古典曲や日本の歌謡曲など約十曲を披露した。見事に晴れ渡った景色の中、農業倉庫を観客席にしてオーナー家族約三十名が耳を傾けた。軽トラの荷台が舞台に早代わり。「協奏曲」の調べは田園に響き渡った。参加したオーナーは「普段聞くことの出来ない演奏を農場で聞けるとは。異国の音楽だが、不思議とどこか懐かしい響き」と話していた。「エコ田んぼ」は、生産者と消費者をつなぐことが目的。「田植え、草刈り、稲刈り」を体験、一区画二万五千円でオーナー。収穫祭で約四十キロを受け取る仕組み。



納屋の軽トラ特設ステージでの演奏に耳を傾けるオーナーら

佐藤農場「エコ田んぼ」で
異国音楽を満喫

熊本県美里フットパスに参加

星研究室訪問に先立つ十一月十二日、日本造園学会九州支部熊本研究会主催の「美里フットパス体験会」に参加。「同町文化交流センター」ひびきから二ルートで出発、地域の水文の道を楽しんだ。昼食は「軽トラ・カフェ」。手作り惣菜や干し柿などに舌鼓を打った。平成二十五年「全国フットパスサミット in 美里」を主催。二〇〇四年合併で誕生。人口一万一千人。



阿蘇神社境内で
軽トラ・カフェ
手作り昼食を満喫



雨天の野幌森林公園に行く

北海道農山漁村ネットワーク全道研修会が、十一月十一から二日間、日高町で開催され二名が参加。農文協の甲斐良治氏の講演を含む研修、翌日は「エコウォーク」。地元ガイドは開拓当初の衣装で説明役を務めた。



縄文古道と松浦武四郎が観た世界を歩く

千歳市、長沼町、南幌町、江別市、札幌市にまたがる「縄文古道と松浦武四郎が観た世界コース」ロングトレイルを十月十一から十五日にかけて実施した。

昨年に続き二回目。約百キロの初秋の行程を延べ二十五名で踏破した。参加者からは評価する一方、「出発を早めて」との指摘も。今後の課題としたい。

ふらっと南幌の若者二人、星研究室へ



ミズゴケの産業化を目指そうと11月24日、ふらっと南幌の近藤真人、小原大知両君が星研究室を視察。湿原再生や農業生産の面で種の選定の重要性を認識。キャンパスを離れた圃場は水位調整のために、浮揚する基盤の上で栽培。今後の「ばらまき方式」(大規模栽培)の参考に。遊水地や河川敷の栽培試験地の変化に注視したい。



推進している(乾燥ミズゴケ不使用)。初期のハウス栽培から野外移植には最初が肝心。いくら投資できるかが鍵」とピートランドのワイズユースを推奨した。一方で、ふらっと南幌の小原さんからは過去五年の活動報告。グループ・アース(衛星写真)を使用しながら、失われた湿原

植生実態説明と遊水地や有機農家巡りを含めた新しい農業創出を展望した。会場との意見交換では環境調査を元地元農家との連携を深め、ワイズユースを全国へ発信。当別高校の生徒さんからはミズゴケ栽培には水田を利用、水田自体のラムサール条約も可能?との質問に「壁」の設置でOKと回答。

当別高校IIひと足先に説明



北海道開発局札幌開発建設部江別河川事務所は十月七日、当別高校で生徒らに自然再生の取組みについて説明。生徒からは「地下水面を維持技術を具体的に知りたい」の質問のほか、新夕張川河川敷の現地視察の希望する声も上がった。これに応える形で十二月六日、夕張川河川敷で東穂教諭と生徒十一名が現地を視察。